

Ⅱ 2年間の研究の成果と課題



2年間の研究の成果と課題

研究主題「共に学び合い自己実現を図ろうとする大和っ子の育成～豊かな人間関係と学びの確立を目指した小・中連携の在り方」に迫るため、コミュニケーション能力の「きき合い学び合う」に着目して、学習習慣、生活習慣づくりを土台に、主体的に学ぶ姿勢や支持的学習集団の育成、滑らかな接続、豊かな人間関係の育成を目指し、次の3点に取り組んできた。

(1) 授業改善～「きき合い学び合う態度」の育成

- ・「きく力」の育成を目指す取組と授業構造を意識した授業改善

(2) 外国語活動・外国語科の連携

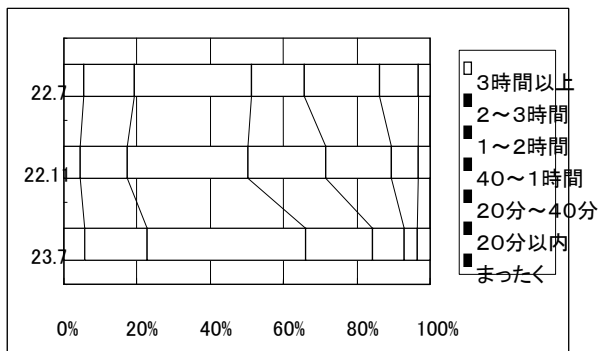
- ・内容、指導法、教材の連携

(3) 小・中交流活動

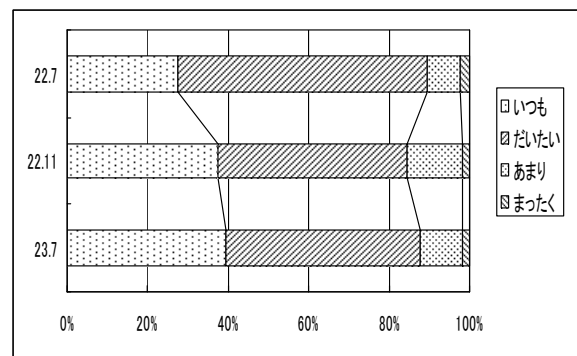
- ・中から小へ、小から中へ、小と小など多様な交流

前項までに、これら3つの部会の研究の歩みを述べてきた。ここでは、それぞれの部会の成果と課題を踏まえ、研究全体の成果と課題について述べることにする。また、その検証として、大和中学校生徒の実態の状況変化を、研究主題と関わりの深いアンケート調査項目から抜粋して下記に掲載する。

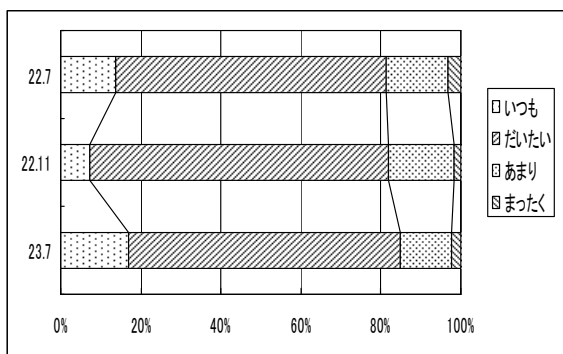
○平日の学習時間



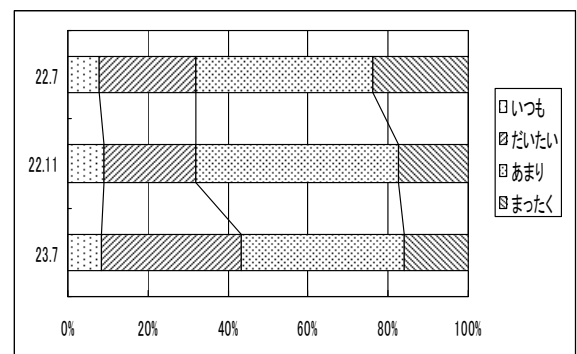
○授業への準備、着席



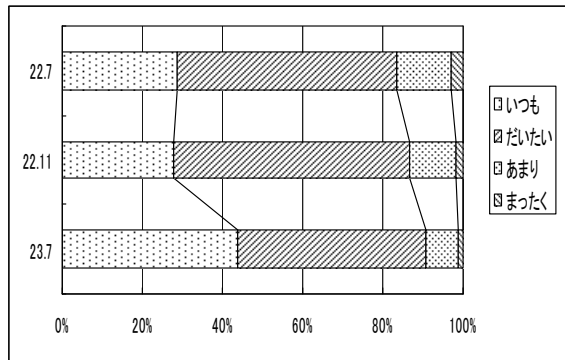
○授業の課題把握



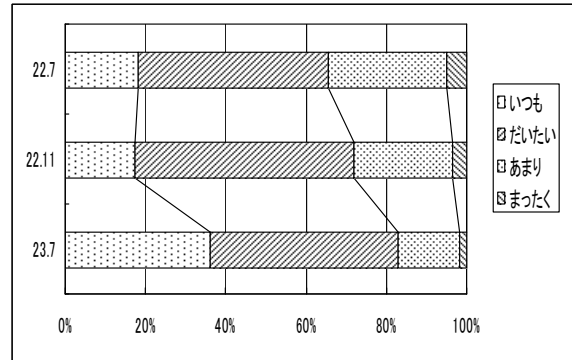
○授業での考えの発表



○授業で友だちの話や意見を聞く



○授業で友だちと話し合う



上表のとおり、いずれの項目においても、わずかではあるが子どもたちに意識の伸びが見られる。また、ここでは掲載しないが、小学校5、6年でも同様の結果が得られている。さらに、小6年生から中1年生への追跡結果についてはすでに述べたところであり、いずれも良好な状況であった。これらから

- 1 確かな学びの向上
- 2 豊かな人間関係の構築
- 3 小・中の滑らかな接続

などについてささやかではあるが成果を得られたと実感したところである。

今後の課題として

- 1 小中における授業及び家庭学習において、教職員・児童生徒が一層共通した認識をもち合うことで、小・中9年間の学びの連続性を確かなものとし、学力とコミュニケーション能力の向上を図ること。
- 2 児童生徒の異年齢間の交流及び「小と小」での学校間連携を一層深めていくことを通して、児童生徒の自己有用感や向上心を育て、豊かな人間性や社会性を身に付けること。
- 3 小・中の生活及び生徒指導に関する共通理解を深めることで、児童生徒の学習及び生活上必須のスキルを系統的に高めること。

が上げられる。

そして、本研究をとおして「小・中の教職員間の相互理解、資質の向上」が図られたことが何よりの大きな成果であり、今後も「9年間で大和地域の子を育てる」という理念のもと、小・中連携教育の充実に邁進していく所存である。

2年次児童・生徒へのアンケート の集計結果と考察

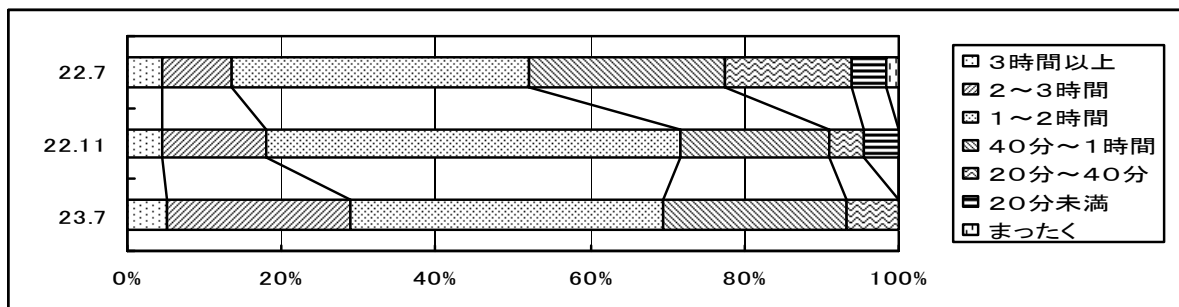
2年次児童生徒への実態把握アンケート

児童生徒の学習上や生活上の実態や変容の実際を把握するため、平成22年7月と11月、及び平成23年7月に次の27項目についてアンケートを行なった。

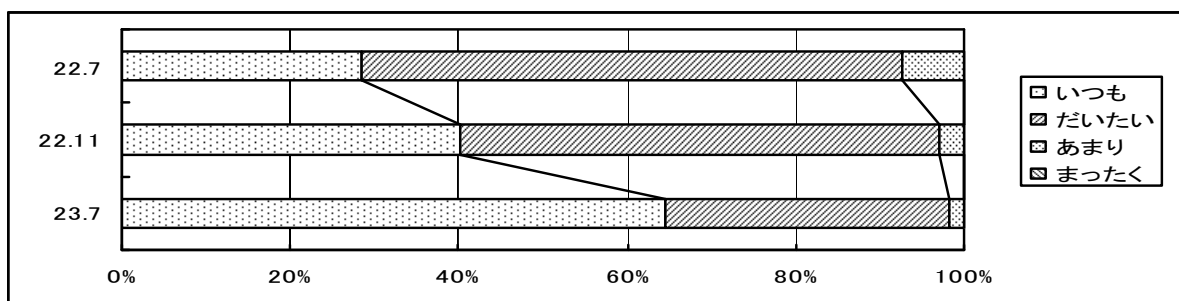
- 1 平日（月～金）に、一日あたりどのくらいの時間、勉強をしていますか。
- 2 土曜日や日曜日など、学校が休みの日に、一日あたりどのくらいの時間、勉強をしていますか。
- 3 平日（月～金）に、学校の授業時間以外に一日あたりどのくらいの時間、読書をしていますか。
- 4 授業が始まる前に学習の準備をして、授業の始まりとともに席についていますか。
- 5 授業のとき、その時間の学習のめあて（学習の課題など）がわかっていますか。
- 6 普通の授業で、自分の考えをよく発表しますか。
- 7 普通の授業で、友だちの話や意見をよく聞いていますか。
- 8 普通の授業で、友だちとよく話し合っていますか。
- 9 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文書に書いたりすることは難しいですか。
- 10 外国語活動（英語科）の授業は好きですか（小5～中学生のみ）。
- 11 外国語活動（英語科）の授業は分かりやすいですか（小5～中学生のみ）。
- 12 外国語活動（英語科）の授業で、先生や友だちと英語で会話することは好きですか（小5～中学生のみ）。
- 13 英語科の授業で、英文を読むことは好きですか（中学生のみ）。
- 14 英語科の授業で、英文を書くことは好きですか（中学生のみ）。
- 15 外国活動（英語科）の授業で、外国の文化を勉強することは好きですか（小5～中学生のみ）。
- 16 昨日の夜、何時に寝ましたか。
- 17 今朝、何時に起きましたか。
- 18 どのようにして起きましたか。
- 19 今朝、朝ごはんは、どんなものを食べましたか。
- 20 自分から「おはよう」「さようなら」「ありがとう」「ごめんなさい」などのあいさつをしていますか。
- 21 昨日、寝るまでに今日の学校の準備ができていましたか。
- 22 初めて会った人とでも、すぐに友だちになることができますか。
- 23 人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか。
- 24 グループをつくって、友だちと活動することは好きですか。
- 25 中学生と一緒に活動することは好きですか（小学生のみ）
- 26 小学生のお手本になることは、大切だと思いますか（中学生のみ）
- 27 みんなのために働くことは、大切だと思いますか。

ここでは、子どもの意識の変容の実際を把握するため、小中連携教育を進めた平成22年度の6年生について、中1年生までの状況をアンケート項目を抜粋して提示する。

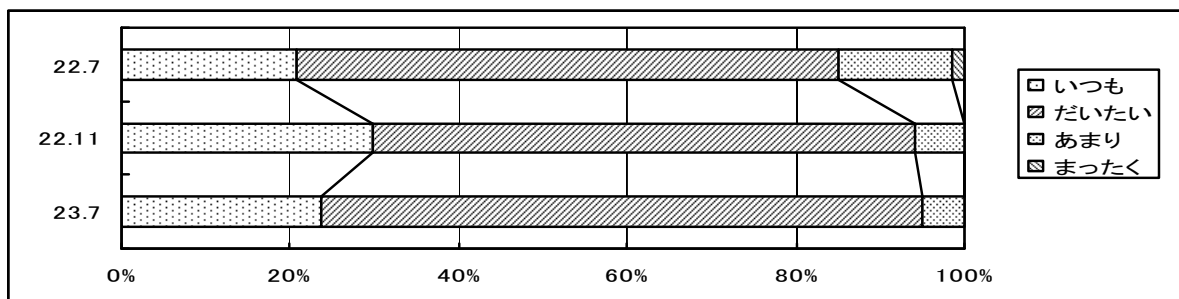
1 平日の学習時間



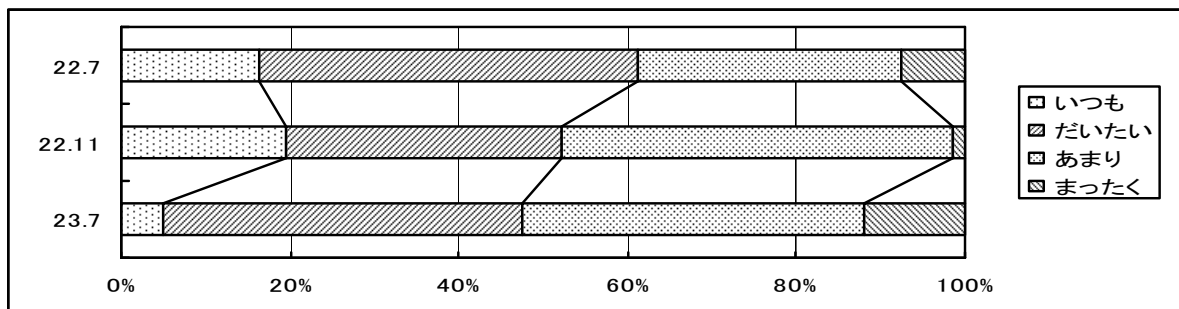
4 授業への準備、着席



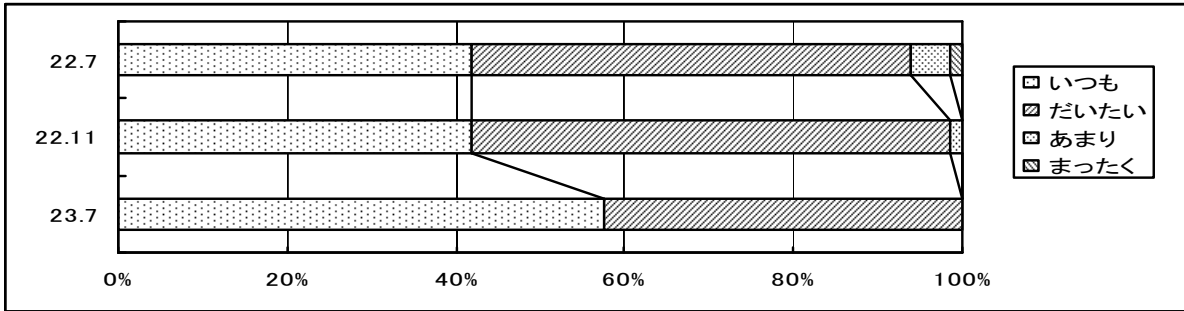
5 授業の課題把握



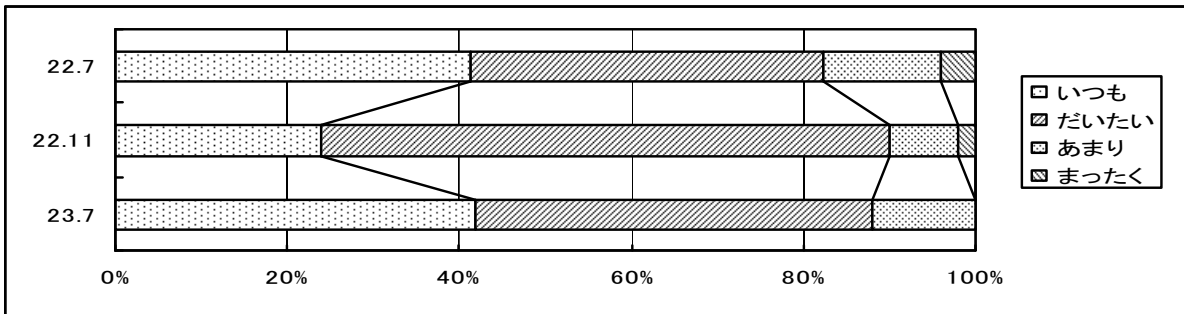
6 授業での考えの発表



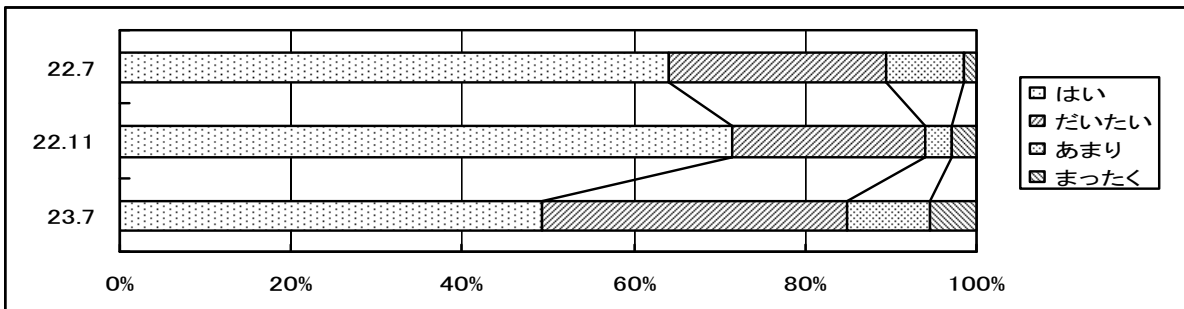
7 授業で友だちの話や意見を聞く。



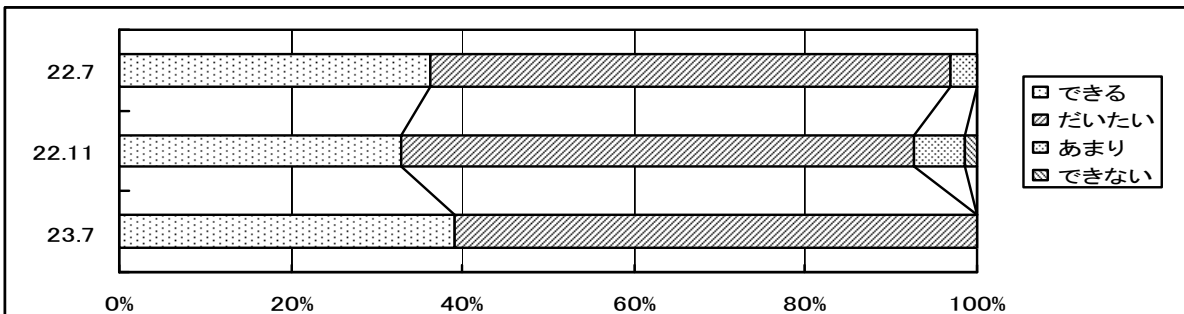
8 授業で友だちと話し合う



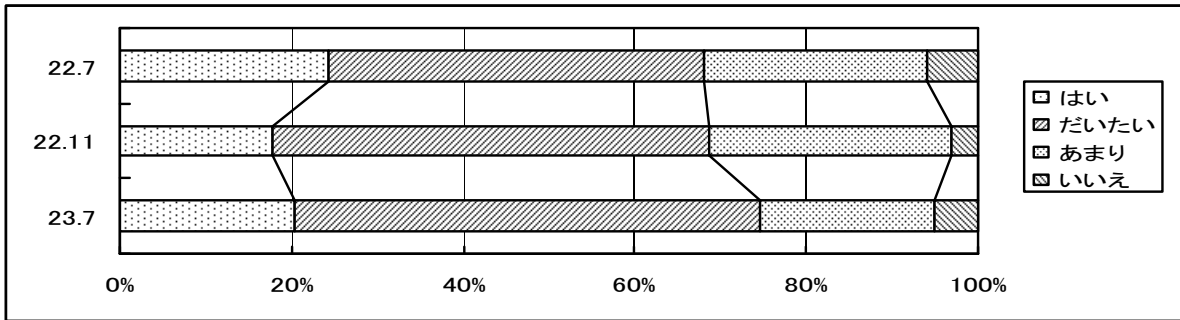
10 外国語活動（英語科）が好き



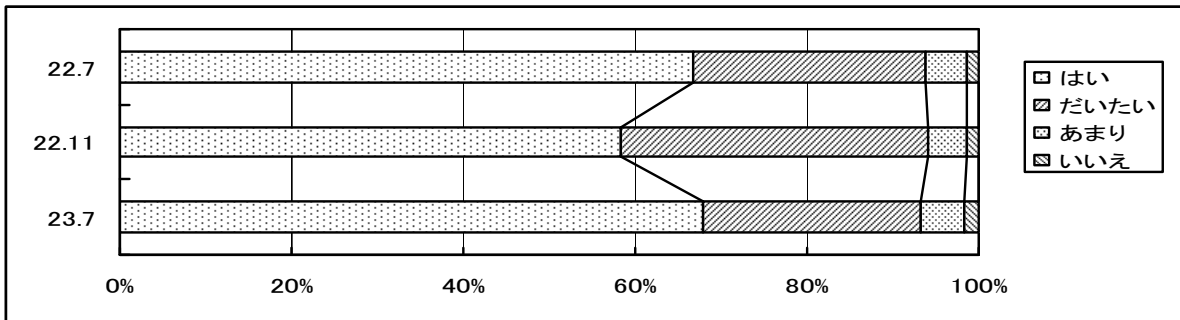
20 自発的なあいさつ



22 友だちづくり



24 グループ活動が好き



【 考 察 】

- ・ 授業への準備や着席、課題把握、友だちの意見を聞く態度、あいさつなどに優位性が見られる。
- ・ 平日の学習時間、授業での友だちとの話し合い、友だちづくり、グループ活動への意欲などには変化が見られない。
- ・ 授業での発表、英語科への意欲に劣位性が見られる。

対象の子どもたちは、中学校へ入学をして4ヶ月が過ぎようとしている。生活リズム、教科担任制の授業、部活動と学习上、生活上の大きな変化があったが、アンケート結果からは、中学校生活、学習への円滑な移行が見られる。特に、学習への準備や着席、聞く態度、あいさつではほぼ全員の子どもの達成率である。

しかしながら、学習内容の難易度の高まりからか、授業での発表、英語科への意欲の低下が見られる。一層の授業改善が求められる。また、家庭での学習時間についても、2極化が進行する傾向が感じられる。一層の指導が必要である。